

証券コード6859

2024年度(2025年3月期)
エスペック株式会社 決算説明

2025年5月26日

代表取締役 執行役員社長 **荒田 知**

2024年度 通期実績について

エスペック株式会社 取締役 執行役員の西谷でございます。
それでは、2024年度通期実績についてご説明させていただきます。

2024年度通期 決算概要

主に国内EV・バッテリー市場の投資継続、国内生産能力増強の効果により
受注高・売上高・利益面いずれも過去最高を更新
中期経営目標を前倒し達成、新中期経営計画を発表

	前期比		予想比(2025年3月修正)	
■受注高	○	すべての事業が増加、特に装置事業の環境試験器、サービス事業の受託試験が増加	○	すべての事業がやや上回る
■売上高	○	すべての事業が増加、特に装置事業の環境試験器、サービス事業の受託試験が増加	○	すべての事業がやや上回る
■営業利益	○	販管費は増加したが、増収および原価率改善により増加	○	売上高の増加により予想をやや上回る
■親会社株主に帰属する当期純利益	○	営業利益の増加および政策保有株式の売却益もあり大幅増	○	営業利益の増加により予想をやや上回る
■1株当たり配当金は、期末配当金を期初計画から15円増配(2025年3月7日発表) 年間では、中間35円、期末60円、年間95円を予定				

2024年度の決算総括といたしましては、国内のEV・バッテリー市場の投資が継続し、国内生産能力増強の効果もあり、受注高・売上高・利益面いずれも過去最高を更新いたしました。

なお、当期純利益につきましては、政策保有株式の売却益の計上もあり大幅に増加しております。

3月に修正した業績予想に対しては、受注高・売上高・利益面いずれも、予想をやや上回る結果となりました。

配当につきましては、期末配当金を期初計画から15円増配し、年間では95円を予定しております。

なお、中期経営目標を前倒しで達成したため、5月15日に新しい中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」を発表しました。後ほど荒田よりご説明させていただきます。

損益の状況

	2023年度 実績	2024年度 期初予想	2024年度 修正予想 (25年3月)	2024年度 実績	前期比	期初 予想比	3月 予想比
受注高	62,290	63,000	66,700	67,514	+8.4%	+7.2%	+1.2%
売上高	62,126	65,000	66,500	67,288	+8.3%	+3.5%	+1.2%
売上原価 原価率	40,132 64.6%	42,400 65.2%	42,800 64.4%	43,300 64.4%	+7.9% 0.2pt改善	+2.1% 0.8pt改善	+1.2% ±0pt
売上総利益 利益率	21,994 35.4%	22,600 34.8%	23,700 35.6%	23,987 35.6%	+9.1% 0.2pt改善	+6.1% 0.8pt改善	+1.2% ±0pt
販管費	15,408	15,600	16,400	16,460	+6.8%	+5.5%	+0.4%
営業利益	6,585	7,000	7,300	7,526	+14.3%	+7.5%	+3.1%
経常利益	6,919	7,200	7,600	7,793	+12.6%	+8.2%	+2.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,969	5,200	5,800	6,003	+20.8%	+15.4%	+3.5%
ROE	10.0%	9.6%	10.5%	11.0%	+1.0pt	+1.4pt	+0.5pt

ESPEC CORP.

3

こちらが損益の状況です。

前期比では、受注高は8.4%増加、売上高は8.3%増加しました。

原価率については0.2ポイント改善、販管費は6.8%増加しました。

営業利益につきましては、14.3%の増加となり、当期純利益は20.8%増加しました。

予想に対しては、受注高は期初の想定では減速懸念がありましたが、北米が好調に推移し、中国も堅調でした。

また、想定以上に国内のEV・バッテリー投資が拡大したことにより、11月に受注高を見直しております。

さらに、3月に業績予想を上方修正しましたが、修正予想を上回って着地することができました。

ROEも11%と予想を上回る結果となりました。

セグメント別の損益の状況

		(百万円)						
		2023年度 実績	2024年度 期初予想	2024年度 修正予想 (25年3月)	2024年度 実績	前期比	期初 予想比	3月 予想比
装置事業	受注高	53,565	53,700	56,600	57,283	+6.9%	+6.7%	+1.2%
	売上高	53,518	56,000	56,900	57,507	+7.5%	+2.7%	+1.1%
	営業利益	5,848	6,180	6,400	6,610	+13.0%	+7.0%	+3.3%
サービス事業	受注高	7,634	8,000	8,400	8,532	+11.8%	+6.7%	+1.6%
	売上高	7,536	7,900	8,300	8,425	+11.8%	+6.7%	+1.5%
	営業利益	681	800	800	793	+16.4%	△0.8%	△0.8%
その他事業	受注高	1,453	1,700	2,100	2,170	+49.3%	+27.7%	+3.4%
	売上高	1,455	1,500	1,700	1,758	+20.8%	+17.2%	+3.4%
	営業利益	51	20	100	126	+146.3%	+533.5%	+26.7%
連結消去	受注高	△363	△400	△400	△472	—	—	—
	売上高	△383	△400	△400	△403	—	—	—
	営業利益	3	0	0	△4	—	—	—
計	受注高	62,290	63,000	66,700	67,514	+8.4%	+7.2%	+1.2%
	売上高	62,126	65,000	66,500	67,288	+8.3%	+3.5%	+1.2%
	営業利益	6,585	7,000	7,300	7,526	+14.3%	+7.5%	+3.1%

ESPEC CORP.

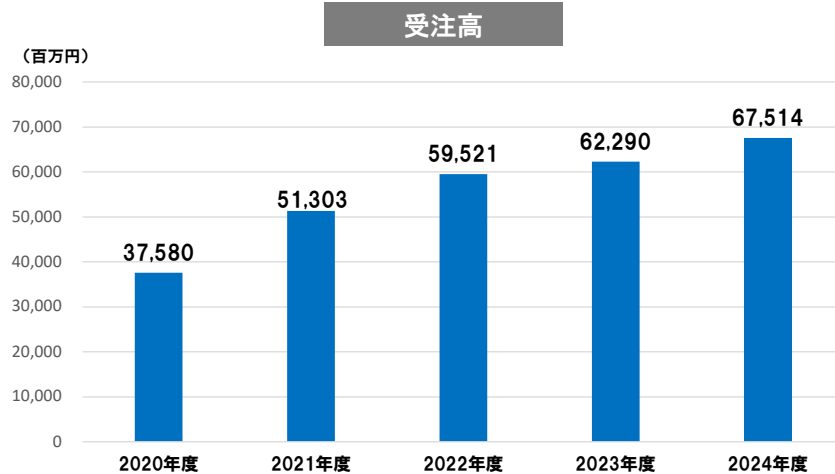
4

セグメント別の実績については、ご覧のとおりです。

2024年度実績 受注高について

■ 受注高は、4期連続で過去最高更新

日本を中心に北米・中国が増加、韓国・台湾は横ばい、東南アジア・欧州は減少



次に受注高についてですが、すべての事業が増加し、
4期連続で過去最高を更新し、675億1,400万円となりました。

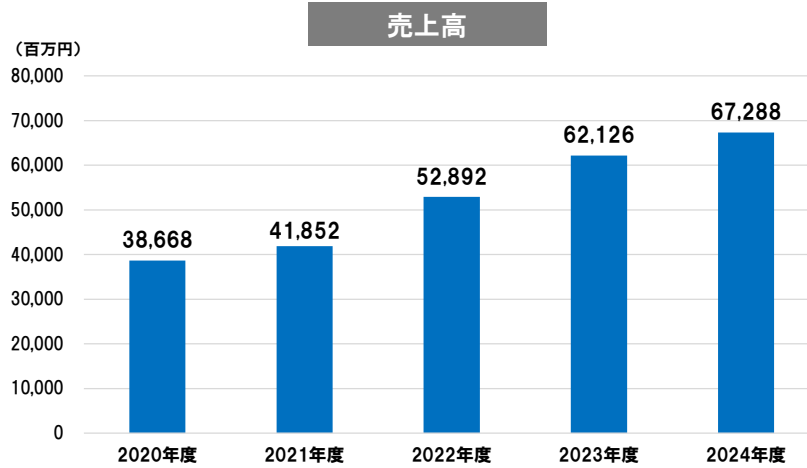
エリアでは日本を中心に、北米・中国が増加、
韓国・台湾は横ばい、東南アジア・欧州は減少いたしました。

なお、為替変動によるプラスの影響が約13億円、
2023年9月の事業譲り受けによる影響が約6億円ございました。

2024年度実績 売上高について

■ 売上高は、3期連続で過去最高更新

日本・北米を中心に東南アジア・韓国・台湾が増加、中国は前期並み、欧州は減少



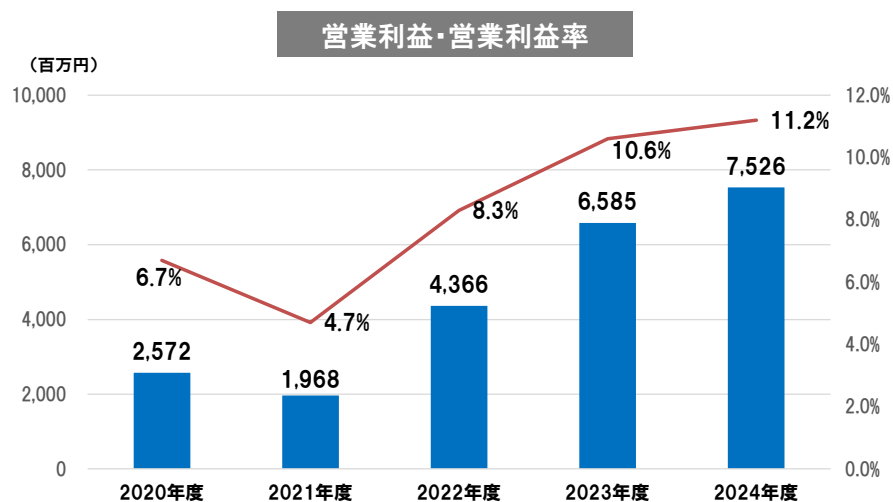
売上高につきましては、3期連続で過去最高の672億8,800万円となりました。

日本・北米を中心に東南アジア・韓国・台湾が増加いたしましたが、中国は前期並み、欧州は減少いたしました。

なお、為替変動によるプラス影響は約14億円、事業譲り受けによる影響は約12億円ございました。

2024年度実績 営業利益・営業利益率について

- 営業利益は、2期連続で過去最高更新
売上高の増加および原価率改善により収益性が向上

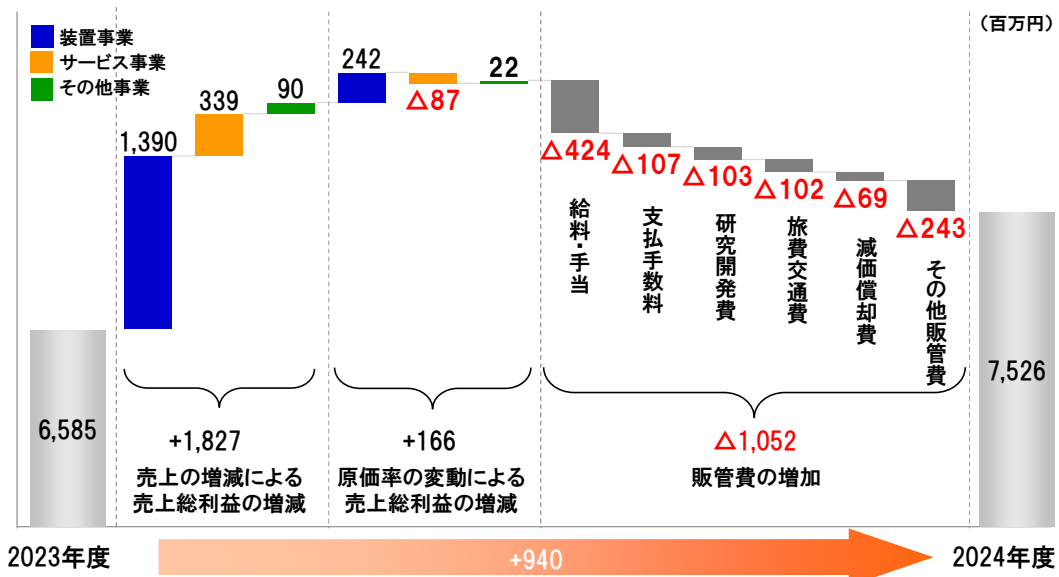


営業利益につきましては、売上高の増加および原価率改善により
2期連続で過去最高を更新し、75億2,600万円となりました。
営業利益率は11.2%となりました。

為替変動によるプラス影響は約1億円でした。

営業利益の増減要因分析

■ 販管費は増加したが、主に装置事業・サービス事業の増収、装置事業の原価率改善により増益



※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

ESPEC CORP.

8

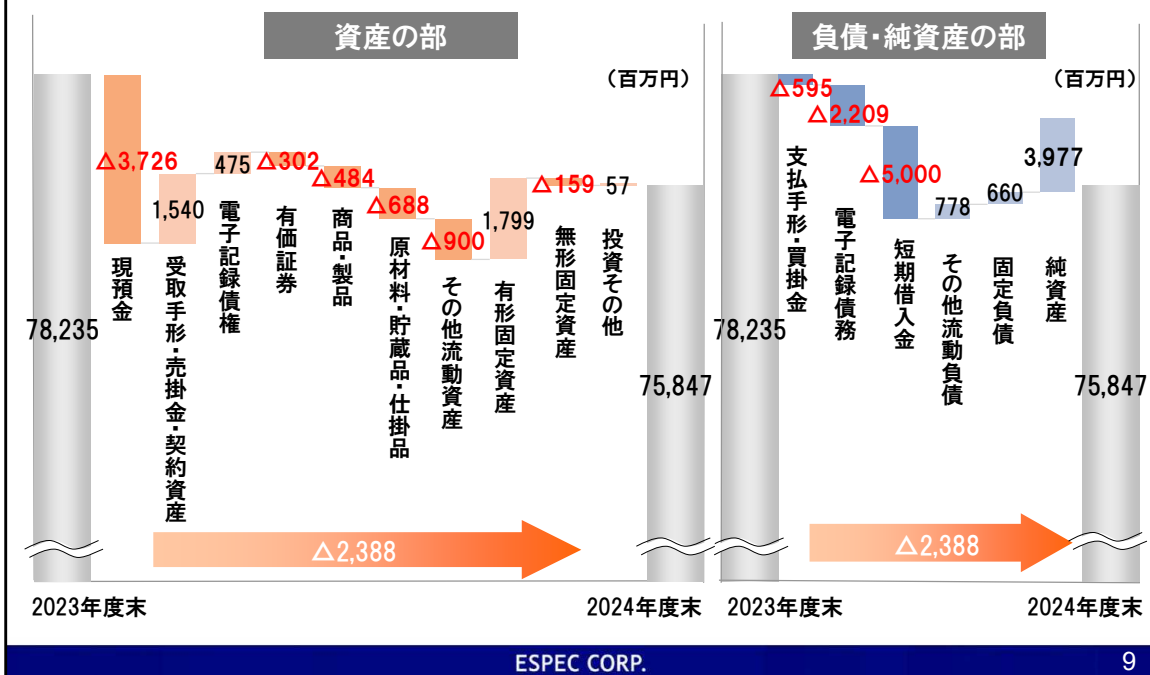
こちらは営業利益の増減要因分析です。

売上拡大に伴い販管費が増加したものの、
主に装置事業・サービス事業の増収、装置事業の原価率改善により、
前期比で9.4億円増加いたしました。

なお、サービス事業の原価率が悪化しておりますが、
これは主に事業拡大に伴う人員増によるものです。

資産・負債の状況

- 売上拡大に伴う売上債権の増加や設備投資による固定資産の増加があったが、短期借入金の返済により、総資産は約24億円減少

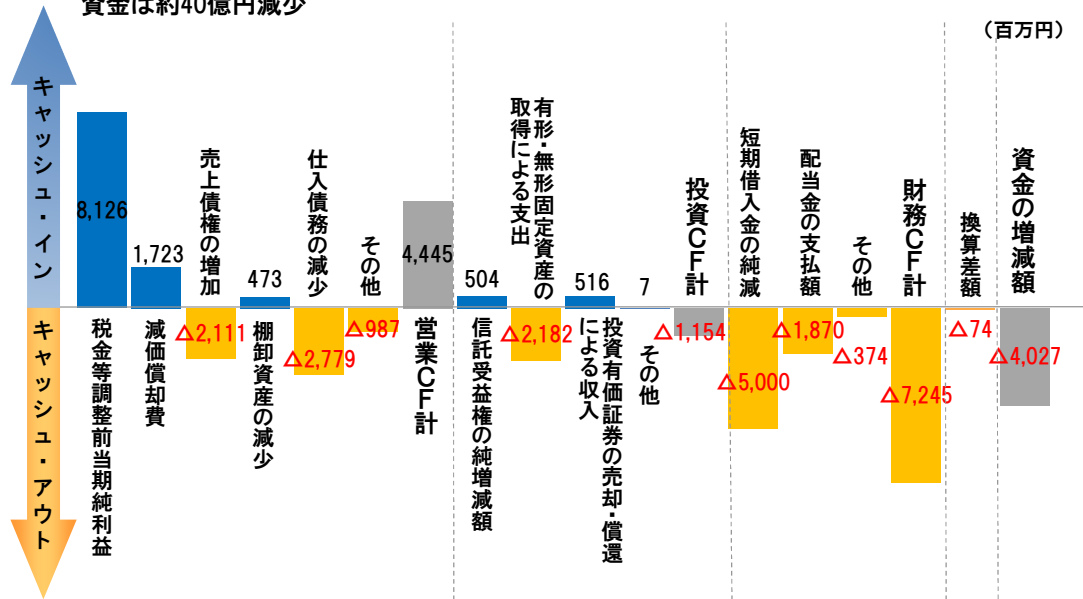


次に資産・負債の状況ですが、
資産につきましては、売上拡大に伴う売上債権の増加や有形固定資産の増加がありましたが、短期借入金の返済により、
総資産は約24億円減少しました。

なお、当社は棚卸資産の適正化に取り組んでおり、受注は拡大したものの、
棚卸資産を約12億円、減少させることができました。

キャッシュフローの状況

■ 営業CFは約44億円のキャッシュインとなったが、設備投資や短期借入金の返済により資金は約40億円減少



ESPEC CORP.

10

キャッシュフローの状況につきましては、
 営業キャッシュフローは、約44億円のキャッシュイン、
 投資キャッシュフローは、受託試験所の開設といった固定資産の取得
 などにより、約12億円のキャッシュアウト、
 財務キャッシュフローは、短期借入金の返済や、配当金の支払などにより、
 約72億円のキャッシュアウトとなりました。

以上のことから、資金は前期末から約40億円減少し、約128億円となりました。

装置事業セグメント

(百万円)

	2023年度 実績	2024年度 期初予想	2024年度 修正予想 (25年3月)	2024年度 実績	前期比	期初 予想比	3月 予想比
受注高	53,565	53,700	56,600	57,283	+6.9%	+6.7%	+1.2%
売上高	53,518	56,000	56,900	57,507	+7.5%	+2.7%	+1.1%
営業利益 利益率	5,848 10.9%	6,180 11.0%	6,400 11.2%	6,610 11.5%	+13.0% +0.6pt	+7.0% +0.5pt	+3.3% +0.3pt

環境試験器

- 国内では、汎用性の高い標準製品、カスタム製品いずれも受注高・売上高ともに前期比で増加。
- 海外では、受注高は主に北米、中国が増加したが、東南アジアが減少し前期並み。
売上高は東南アジア、北米、韓国が増加したが、中国は前期と同水準、欧州が減少し前期並み。

エネルギーデバイス装置

- EVバッテリー向け一括案件の投資が減少し、主に国内において受注高・売上高ともに前期比で減少。

半導体関連装置

- サーバー関連の大型案件の受注獲得により、受注高は前期比で増加、売上高はメモリ関連の投資抑制の影響を受け、前期比で大幅に減少。

つぎに、セグメント別の状況についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、主に環境試験器が好調に推移し、前期比で、受注高・売上高・営業利益、いずれも増加いたしました。

製品群ごとの状況はご覧の通りです。

サービス事業セグメント

(百万円)

	2023年度 実績	2024年度 期初予想	2024年度 修正予想 (25年3月)	2024年度 実績	前期比	期初 予想比	3月 予想比
受注高	7,634	8,000	8,400	8,532	+11.8%	+6.7%	+1.6%
売上高	7,536	7,900	8,300	8,425	+11.8%	+6.7%	+1.5%
営業利益 利益率	681 9.0%	800 10.1%	800 9.6%	793 9.4%	+16.4% +0.4pt	△0.8% △0.7pt	△0.8% △0.2pt

アフターサービス・エンジニアリング

■予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加。

受託試験・レンタル

■EVバッテリー向け試験設備増強の効果があり、受注高・売上高ともに前期比で増加。

次にサービス事業ですが、前期比では、主にEVバッテリー向け受託試験が好調に推移し、受注高・売上高ともに増加いたしました。

営業利益につきましては、前期比では、主に受託試験の増収により増加いたしました。

予想に対しては、活動量の増加や人員増により原価率が悪化し、未達となりましたが、育成が進むことから、25年度以降に改善を見込んでおります。

その他事業セグメント

(百万円)

	2023年度 実績	2024年度 期初予想	2024年度 修正予想 (25年3月)	2024年度 実績	前期比	期初 予想比	3月 予想比
受注高	1,453	1,700	2,100	2,170	+49.3%	+27.7%	+3.4%
売上高	1,455	1,500	1,700	1,758	+20.8%	+17.2%	+3.4%
営業利益 利益率	51 3.5%	20 1.3%	100 5.9%	126 7.2%	+146.3% +3.7pt	+533.5% +5.9pt	+26.7% +1.3pt

環境保全・植物育成装置

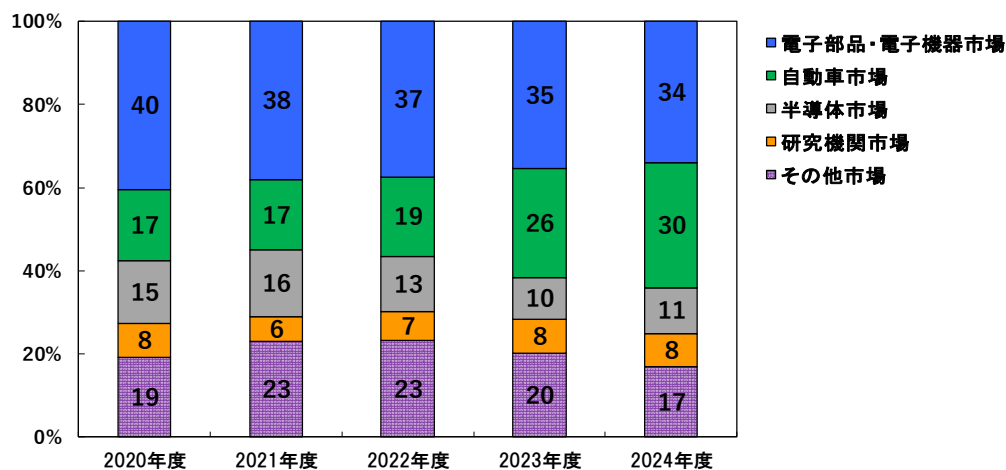
- 水辺づくりや森づくりが堅調に推移するとともに、植物研究用装置や植物工場の大型案件があり、受注高・売上高ともに前期比で増加。
- 大阪・関西万博で展示されるアクアポニックス(植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせた循環型生産システム)や会場の緑化のための植物苗・資材も納入。

その他事業につきましては、
受注高・売上高ともに前期比で増加いたしました。
大阪・関西万博の特需もございました。

市場別売上構成比

■ 電子部品・電子機器市場は前期と同水準、EV・バッテリー向けの売上計上が進み、カーエレクトロニクスを含む自動車市場の構成比が増加

単体(装置事業)



こちらは、エスベック単体の市場別の売上構成比です。

ブルーの電子部品、電子機器市場の売上高は、前期並みとなり、比率は34%でした。

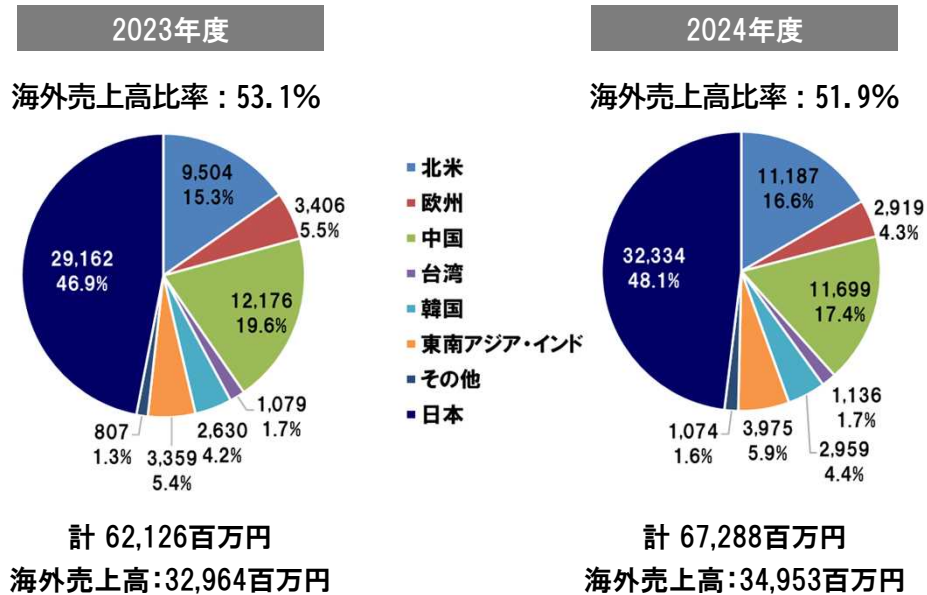
グリーンの自動車市場は、EV・バッテリー向けの売上計上が進み、4ポイント増加し、30%となりました。

グレーの半導体市場の売上高はやや上昇し、11%となり、オレンジの「研究機関」は、前期並みの8%でした。

一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品などさまざまな業種が含まれており、17%となりました。

地域別売上構成比

■ 日本の売上高が増加し構成比が上昇、海外は主に北米の売上高が増加



ESPEC CORP.

15

地域別の売上構成につきましては、海外売上高比率は51.9%となり、昨年より、やや低下しました。

国内では、EV・バッテリー関連の売上計上が進み、売上高は増加し、比率も上昇しました。

北米は、衛星通信分野が好調に推移し、売上高も比率も上昇しました。

欧州は、景気低迷の影響により売上高は減少し、比率も減少しました。

中国については、売上高は前期並みとなり、比率は減少いたしました。

東南アジアにつきましては、売上高も比率も増加しました。

2024年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

第8次環境中期計画(2022～2025年度)のもと、

地球温暖化対策および生物多様性保全活動を推進

- ・低GWP冷媒を搭載した恒温恒湿器など環境配慮型製品を発売
- ・「エスペック50年の森」として2024年4月までに植樹祭を3回実施、12,000本を植樹

■S(社会)

- ・教育制度の拡充や次世代経営人材の育成、新しい人事評価制度の立案
- ・企業理念の理解を深める研修会や全社イベントの開催
- ・エンゲージメント調査を実施、執行役員・本部長が行動計画を策定・実行

■G(ガバナンス)

- ・グループ全体の内部統制システムの強化
- ・サステナブル調達ガイドラインを策定

2024年度のESGの主な取り組みは、ご覧のとおりです。

配当基本方針および実績

配当基本方針

※2025年5月15日、配当基本方針の改定を公表(P.44)

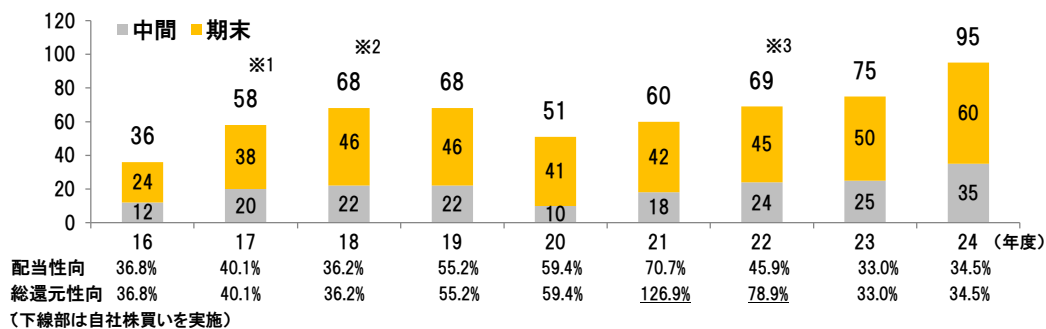
配当性向30%に加え、余剰資金の1/3を目途に上乘せする

必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向

(円) 2024年度は、期末配当金を期初計画から15円増配(2025年3月7日発表)し、年間95円を予定



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

こちらは今年度の配当実績です。

2024年度は、期末配当金を期初計画から15円増配し、年間95円を予定しております。

なお、5月15日に配当基本方針の改定を公表しております。後ほどご説明いたします。

TOPICS 1

「あいち次世代モビリティ・テストラボ」サービス開始 車載用バッテリーおよびEV・自動化モジュールの試験需要に対応

■あいちバッテリー安全認証センター

- ・国内最大級の車載用バッテリー専門試験所として2025年2月開設
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化・大容量化に対応
- ・国連規則ECE-R100の安全性試験をはじめとする各種試験規格に対応



あいちバッテリー安全認証センター
(愛知県常滑市)

■豊田試験所

- ・当社最大の総合試験所である豊田試験所の機能を拡張(2025年4月サービス開始)
- ・e-Axle・PCU・ECUなど供試品の大型化に対応
- ・EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

次に、TOPICSですが、今年2月に「あいち次世代モビリティ・テストラボ」を開設しました。

車載用バッテリーおよび EV自動化モジュールの受託試験サービスを強化してまいります。

TOPICS 2

AI・自動運転分野の試験需要に対応 急速温度変化チャンバー

- ・2025年4月、急速温度変化チャンバーに試料温度を20°C/分で制御可能なハイパフォーマンスモデルをラインアップ
- ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合し、低GWP※冷媒「R-449A」を標準搭載



急速温度変化チャンバー(TCC-151W-20)

低GWP冷媒搭載 低温恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ ECOタイプを発売

- ・2024年11月、環境試験器のグローバルスタンダードモデル「プラチナスJシリーズ」よりECOタイプを発売
- ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減、低GWP※冷媒「R-449A」搭載により温室効果ガス排出量削減に貢献



低温恒温(恒湿)器プラチナスJシリーズ ECOタイプ

※二酸化炭素を基準に、ほかの温室効果ガスの温暖化する能力を表した数字のこと。値が小さいほど環境負荷が少ない

新製品としては、AI・自動運転分野の試験需要に対応した急速温度変化チャンバーや、低GWP冷媒を搭載した恒温恒湿器を発売いたしました。

TOPICS 3

-70℃でおいしく急速冷凍 超低温ショックフリーザーを発売

- ・2025年4月、-70℃の超低温で食品を急速に冷凍し、生鮮食品も鮮度を保ちながら保存できる「超低温ショックフリーザー」を発売
- ・低風速環境下での冷凍を実現することで、食品の乾燥を防ぎながら、保存、解凍、再加熱まで1台で完結



超低温ショックフリーザー

低GWP冷媒搭載 急速温度変化装置を コスモピアハイテックが国内で初めて発売

- ・2024年10月、当社グループのコスモピアハイテックが国内初となる低GWP※冷媒「R-473A」搭載の急速温度変化装置を発売
- ・国際的な試験規格に適合するとともに、温室効果ガス排出量削減に貢献



急速温度変化装置プレミアムエクセレントシリーズ（EC-28PXHH）

※二酸化炭素を基準に、ほかの温室効果ガスの温暖化する能力を表した数字のこと。
値が小さいほど環境負荷が少ない

また、ご覧のような、食品機械分野での新製品や、
子会社コスモピアハイテックの冷凍技術を活かした新製品を発売しました。

社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で5年連続「Bスコア」、水セキュリティは「B-スコア」「サプライヤーエンゲージメント評価」では、2年連続最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に2年連続で選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5つ星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



■ IRサイトの評価

- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
- ・「Gomez IRサイトランキング2024」銅賞(業種別17位)
- ・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業



次に社外からの評価ですが、ご覧のような機関からのご評価をいただきました。

以上のとおり2024年度の通期実績を説明させていただきました。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合
があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

【お問い合わせ先】 エスペック株式会社
〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795
e-mail ir-div@espec.jp
サステナビリティ推進部 部長 中川
IR・広報グループ 大川・貝川

ESPEC CORP.

以上をもちまして、私からのご説明を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC

ESPEC CORP.